

有限会社柴田慶信商店

大館市御成町二丁目15-28

製品には使用できなかった天然秋田杉の端材を有効活用し 秋田杉の特徴を活かした六角箸として商品化を実現

【事業計画名】秋田杉の箸製造と秋田杉有効活用



六角箸成形箸先付機



ハニカム構造(六角形)を施した六角箸

取り組みの経緯

柴田慶信商店は樹齢約150年以上の天然杉を活かし、白木(ウレタンを施さない完全無塗装)にこだわった曲げわっぱを製造販売している。白木の曲げわっぱは、天然杉が本来持っている吸湿性、芳香、抗菌効果によって、ご飯の水分を程よく吸収し、冷めても美味しく、ご飯が傷みにくいなどの特徴から、自分で使用する弁当箱として愛用するファンが多い。

曲げわっぱに使用される天然杉は、時間をかけて育つことで、杓目が細かく、年輪が均一な部材となる。近年は確保が難しい貴重な資源であるが、曲げわっぱとして使用される部分は材料全体の5割程度に過ぎず、端材はほとんどが廃棄される状況にあった。こうした貴重な資源の有効活用、環境に配慮したものづくりを実現する観点から端材を活用した新たな商品づくりについて検討を行っていた。

実施内容

首都圏百貨店における箸の売場面積は相応の広さがあり、景気に左右されずに毎月安定した売上があるとの情報提供を受け、これに着目した結果、天然杉の端材を活用した箸作りを試作することとした。

曲げわっぱに使用される天然杉は、節が少なく、細かく幅が均等な木目、赤みの強い特有の淡紅色、清純爽快な香りなどの特色を持ち合わせる。一方で、杉は木材としては比較的柔らかい材質であるため、その弱点を如何に払拭するかが課題となった。

この課題に対して、丸や四角形状に比べ強度が高いとされるハニカム構造(六角形)を採用するとともに、手入れのしやすさ、持ちやすさなどにも気を配り、何度も試作を重ねた。箸先の細さについては、強度が維持できる限界を探りながら、素材の繊細さを活かすことができるよう成形機にカスタマイズを施した。

事業の成果

六角箸は「金水引(赤太:芯に近い部分)」「銀水引(白太:樹皮に近い部分)」「一膳用」として土産用や自分使いのアイテムとして多くのお客様に買い求められている。今まで廃棄していた貴重な資源を新たな商品に活用でき、環境に配慮したものづくりを実現できた。

当社商品の取扱いを希望するバイヤーからの問い合わせは多いが、販路は選別している。柴田社長は「当社曲げわっぱのこだわり、手入れ方法等をお客様に十分説明できる知識・接客能力が備わった販売先でなければ取引は行っていない。商品価値を本当に理解いただける先かを重視している。」と語る。



六角箸の商品例(金水引、銀水引、一膳用)



白木にこだわった曲げわっぱ商品



昨年8月オープンの「わっぱビルディング」

当社の商品はお客様の要望を商品に反映させ、進化を続けながら今日に至っています。「隅が丸いおひつ」は父が実演販売していた1980年代にお客様の要望に応えるため、ロクロの技術を曲物に取り入れ3年がかりで完成させたものです。

当社では初めからストーリーありきの商品販売は行っていません。購入後に特徴やこだわりについて理解を深めていただくことで、長く愛着を持って使っていただけるものづくりを目指しています。そのため、お客様が第一印象で商品を気に入り、手にとっていただけるよう、日々の製作に励んでいます。



代表取締役
柴田 昌正さん

今後の活動予定

当社では2018年8月大館駅前近くのビルをリノベーションし、「伝統」「食」「交流」の3つの機能を持つ、にぎわい創出の場として「わっぱビルディング」をオープンしている。わっぱビルディングでは白木の曲げわっぱの製作体験ができるが、当日持ち帰りも可能で予約希望者が後を絶たない。県外から製作体験に来る方も多いが、柴田社長は「製作の手間を体験いただくことで曲げわっぱの価格が妥当なものであることを理解いただく良い機会になっている。モノの販売だけでなく、体験(コト)の販売を通じて、地元で商売が成り立つ仕組みを作り、大館の活性化にもつなげたい。」としている。



有限会社柴田慶信商店

代表者	代表取締役 柴田 昌正
創業	昭和41年
資本金	300万円
従業員数	18名
業種	木材・木製品製造業
TEL	0186-42-6123
FAX	0186-42-6123
URL	magewappa.com